

授業要項(令和6年度分)

2 年 生

作 業 療 法 学 科

授業科目名	解剖学－実習－		(フリガナ) 担当教官名	堀	江	貴	文	・	錦	織	健	次
開講学期	前期			津	田	宏	太	郎				
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修					
科目概要	<p>人体各器官の模型を用いながら、神経系、内臓器系、運動器系の3分野に分けた実習を行う。実習はPT学科・OT学科合同のグループワークとする。全体で9グループ作成し、神経系、内臓器系、運動器系それぞれで3グループずつ配置し、5コマ毎に各分野をローテーションしながら全ての分野の学習を行わせる。担当教員は事前に各分野に関する予習課題を課し、各分野授業開始時に小テストを行う。また学習終了時に理解度の確認のための口頭試問を行う。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的に位置関係を正しく理解し説明できるようになる。</li> <li>・模型を用いて人体各器官の立体的な構造を理解することにより、講義で学んだ知識と関連付け、説明することが出来る。</li> </ul>											
回数	授業内容										担当	
1～15	<ol style="list-style-type: none"> <li>①オリエンテーション（到達目標、授業の流れ等）</li> <li>②PT・OT合同で9グループに分かれる。</li> <li>③②のグループを神経系、内臓器系、運動器系の各分野で3グループずつに分ける。</li> <li>④各分野に対し5コマずつ学習を行い、ローテーションしながら15コマで全分野の学習を行う。</li> </ol>										堀江貴文 錦織健次 津田宏太郎	
アクティブ ラーニング	<p>各分野の解剖学的構造に関する予習課題を課し事前学習を行わせ、各分野における授業開始時に小テストを実施する。実習はグループ学習を基本とするため、グループメンバー全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。</p>											
評価基準	<p>出席状況（10％）小テスト（30％）、口頭試問（60％）により判定する。口頭試問は学習期間内に必ず合格することを原則とする。 3領域すべての合格で単位認定とする。不合格の分野についてはその分野の担当教員による個別指導を行い、合格するまで学習を継続させることとする。</p>											
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）											
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）											
実務経験に関する記述	<p>総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、解剖学の基礎から立体的構造、各器官の相互的位置関係に至るまで、人体各器官の構造を総合的に学ばせる。</p>											

授業科目名	生理学実習		(フリガナ) 担当教官名	橋	モト	ミチ	オ	ハシ	ムラ	コウ	ジ
開講学期	前期			津	田	コウ	タ	ロウ	ヨシ	ダ	シュン
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修				
科目概要	生理学の講義で学習した生体の諸機能のうちで重要な項目を選び、実習によってこれらが真実であることを認識するとともに、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識と理解を更に深め、療法士としての資質を高めることを目的とする。										
到達目標	①各テーマごとに必要な生理学の知識を復習し、修得できる ②各自が責任をもちグループ内で協働し実習に取り組むことができる ③実習で得た結果について、生理学的知識を用いて考察できる ④担当教員の指導のもとにレポート作成、発表準備、発表を行うことができる										
回数	授業内容									担当	
1	オリエンテーション 授業の目的、内容、到達度等について説明する。									橋村康二	
2	確認試験									橋村康二	
3~5	I - 1. 神経の興奮と伝導 (橋本道男、津田宏太郎) 誘発筋電図を使用して神経伝導速度の測定を行う。さらに駆血させた状態では、神経伝導速度がどのように変化するか観察して、その要因を考察する。 I - 2. 筋長と筋収縮力の関係 (長谷川奈保) ハンドヘルドダイナモメーターを使用して、肘関節の角度毎の屈曲力を測定する。角度による肘屈曲力の変化を観察し、その要因を考察する。									橋本道男 津田宏太郎	
6~8	II. 感覚と反射 体性感覚の特性について実験を通じて確認し、受容器や神経、脳の機能局在の特徴から考察する。また、伸張反射を観察し、そのメカニズムを考察する。									橋村康二	
9~11	III. 換気とガス交換の生理 スパイロメーターを用いて肺活量等を測定する。体幹を側屈させた場合では排気量にどのような変化が起こるか観察し、その要因を考察する。 また、パルスオキシメーターを使用して酸素飽和度を測定する。息こらえなどの操作により、酸素飽和度がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。									橋村康二 吉田俊輔	
12~14	IV. 運動と代謝 呼気ガス分析装置を用いて、運動時の酸素摂取量、二酸化炭素排出量等を測定する。それらの結果からエネルギー代謝の状態を考察する。									橋村康二	
15~17	V. 腎機能と水分調整 蒸留水や等張液、運動負荷などで尿量や尿の塩濃度、比重がどのように変化するか観察する。そして、その変化の要因について考察する。									橋本道男 津田宏太郎	
18~20	VI. 心臓の活動と心電図 実際に心電図を測定することで、心臓の刺激伝導系について確認する。加えて、バルサルバ手技により心拍数がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。									吉田俊輔	
21~23	報告会 各グループごとにテーマを担当し、発表する。									担当教員全員	
アクティブ ラーニング	実習を通じて1年次に学んだ生理学の知識について再確認するとともに、理解を深める。最終的にグループごとにテーマを指定し、クラス全体の結果をまとめ、考察を行い、報告会において発表する。										
評価基準	課題取り組み状況 20%、レポート内容 60%、発表内容 20% ※上記に関わらずレポートの提出ができなかった場合は単位を認めない										
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 (医学書院) ・実習書を配布する										
参考書											
実務経験に 関する記述											

授業科目名	臨床心理学		(フリガナ) 担当教官名		シ 執 行 三 佳 キョウ ミ カ		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	臨床心理学は、対人援助職者が被支援者の心情理解をするにあたって重要な分野である。この授業では、臨床心理学の歴史、理論的背景、主な支援方法、現代的なトピックスを概説するとともに、様々なワークを通して自己理解及び他者理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の歴史と臨床領域の広さについて説明することができる。</li> <li>臨床心理学的支援の理論と介入方法の概要を説明できる。</li> <li>臨床心理学的見地から、支援者としての自分の意見をまとめ、表現することができる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション、臨床心理学を学ぶ意義、臨床心理学の目指すもの						執行三佳
2	臨床心理学の歴史、臨床心理学的支援に関わる基本的な理論						執行三佳
3	精神的健康とは何か						執行三佳
4	インテーク面接とアセスメント						執行三佳
5	臨床心理学的支援 (1) 精神分析の理論						執行三佳
6	臨床心理学的支援 (2) 精神分析療法						執行三佳
7	臨床心理学的支援 (3) 行動療法・認知行動療法						執行三佳
8	認知行動療法的アプローチの実際						執行三佳
9	臨床心理学的支援 (3) 人間性心理学						執行三佳
10	聴くことについて (傾聴・カウンセリングの模擬体験)						執行三佳
11	トピックス (1) 発達障がいと合理的配慮						執行三佳
12	トピックス (2) 心の危機						執行三佳
13	日本の臨床心理学的課題						執行三佳
14	対人援助職者のメンタルヘルス						執行三佳
15	テスト						執行三佳
アクティブ ラーニング	自分自身の心を見つめることを通して学ぶことを重視する。そのため、すべての回において、導入としてのワーク、学びを深めるワーク、自己理解を深めるワーク、被援助者の模擬体験をするワークのいずれか1つ以上を行う。						
評価基準	レポート1回：10% (独自の意見・感想が表現されていること) 毎回の感想シート：10% (同上) テスト：80%						
教科書	「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬英幹著 (2021) 南江堂						
参考書	よくわかる臨床心理学改訂版・下山晴彦編・ミネルヴァ書房 臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える・園田雅代、無藤清子編・新曜社						
実務経験に 関する記述	精神科の入院、外来、デイケア (4年)、スクールカウンセリング (5年)、乳幼児健診での相談業務、心療内科クリニック、学生相談 (12年) での臨床経験を持つ教員が、各領域における連携事例を含む支援事例を提示し、こころに対する知見と態度を醸成する教育を行う。						



授業科目名	内科学		(フリガナ) 担当教官名	神田 武志・村川 洋子・小谷 暢啓 佐野 千晶・石原慎一郎・川原 洋 長尾 大志・小川 典子・内田美美佳			
開講学期	前期・後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	基礎医学の知識を基にして、臨床医学の基本となっている内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を養成することを目的とする。						
到達目標	理学療法士、作業療法士の養成施設指導要領に求められる基本的な内科学的知識の取得ができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	膠原病						村川 洋子
2							
3	アレルギー疾患						内田美美佳
4	腎機能障害 血液透過療法、透析合併症						神田 武志
5							
6	代謝異常症						小川 典子
7							
8	感染症 中毒、物的原因による疾患						佐野 千晶
9							
10	循環器疾患 循環器解剖学・生理学、心電図等の検査 心不全の病態、虚血性心疾患 画像診断						小谷 暢啓 渡邊 伸英 川原 洋
11							
12							
13							
14	内分泌疾患 下垂体、甲状腺疾患の病態						石原慎一郎
15							
16	消化器疾患 消化器疾患の症候、検査法 口腔・食道・胃・小腸・大腸の疾患 肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総称 画像診断						
17							
18							
19							
20	呼吸器疾患 気管支喘息と COPD、間質性肺炎 画像診断						長尾 大志
21							
22							
23							
アクティブ ラーニング							
評価基準	期末試験、小テスト、出席の総合得点で評価						
教科書	標準理学療法学・作業療法学・基礎分野 内科学 第4版 前田眞治他 医学書院						
参考書	EBM 現代内科学 黒川清 他編 金芳堂 内科診断学(改訂第9版) 黒川清 他編 金芳堂 新臨床内科学(改訂第9版) 高久史麿 他監修 医学書院						
実務経験に 関する記述	本科目はオムニバスであり、各専門分野の認定医資格(腎臓専門医、透析専門医、総合内科専門医、内科専門医)を持つ医師が、大学病院で日々臨床診療に携るなか、経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。						

授業科目名	整形外科学		(フリガナ) 担当教官名	山本宗一郎・山上信生・多久和紘志 門脇俊・真子卓也・西英明 岩佐潤二・栗岡秀行・柿丸知之 山崎健治			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 45 単位数 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	運動器の変形・外傷・炎症・変性・代謝疾患・腫瘍についての病態を理解するとともにそれらの診断法、治療法の知識を習得し、選択する判断力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨、関節、筋の構造と機能を知るとともに整形外科的診断法の意義を理解する。</li> <li>2. 頻度の高い骨折、脱臼、捻挫の病態、症状、合併症を理解する。</li> <li>3. 上肢、下肢、脊椎の代表的疾患と外傷の病態と治療法を理解する。</li> <li>4. 骨・関節感染症の特徴と診断法および治療法について理解する。</li> <li>5. 骨・軟部腫瘍の診断法、治療法について理解する。</li> <li>6. 骨系統疾患、代謝疾患の特徴、診断法および治療法について理解する。</li> </ol>						
回数	授業内容					担当	
1	運動器の構造と機能、病態生理					山崎	
2	診断学、検査					西	
3	治療					岩佐	
4	運動器の外傷					栗岡	
5	骨軟部腫瘍					柿丸	
6	骨・関節感染症、骨系統疾患					多久和	
7	変形性関節症、代謝性疾患					多久和	
8	関節リウマチおよび類縁疾患					西	
9	スポーツ外傷・障害					門脇	
10	運動器リハビリテーション					西	
11	脊椎・脊髄の外傷					真子	
12	脊椎・脊髄の疾患					真子	
13	肩関節・上肢帯の外傷					山本	
14	肩関節・上肢帯の疾患					山本	
15	肘・手関節・手の外傷					山上	
16	肘・手関節・手の疾患					山上	
17	骨盤・股関節・大腿の外傷					門脇	
18	骨盤・股関節・大腿の疾患					門脇	
19	膝関節の外傷					多久和	
20	膝関節の疾患					多久和	
21	下腿・足関節・足の外傷					岩佐	
22	下腿・足関節・足の疾患					山崎	
23	下腿・足関節・足の疾患					山崎	
アクティブ ラーニング							
評価基準	プレゼンテーション 30%、期末試験 50%、出席日数・授業態度 20%						
教科書	運動器疾患とリハビリテーション 第2版 (医歯薬出版)						
参考書	標準整形外科学/松野丈夫 [ほか] 編集、第12版、医学書院						
実務経験に 関する記述	大学病院、総合病院にて10年以上、臨床経験を持ち整形外科専門医資格を持つ教員が整形外科疾患について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	神経内科学		(フリガナ) 担当教官名		オグロ 小黑	ヒロアキ 浩明	ワタナベ 渡邊	タツゾウ 達三	イイジマ 飯島	ケンイチ 猷一
開講学期	通年									
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 45	作業療法学科 2年	単位数 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修		
科目概要	神経内科疾患を診断し、リハビリテーションを行う時の効果的介入を行うことができることを目標に、(1) 神経学的診断法、検査法、(2) 主要な神経・筋疾患の病態を修得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要神経疾患の成因と病態、症候、検査及び治療を理解できる</li> <li>・神経難病対策の社会的意義を理解できる</li> </ul>									
回数	授業内容								担当	
1	障害とリハビリテーションプログラム								飯島猷一	
2	中枢神経系の解剖と機能								飯島猷一	
3	神経学的検査法								飯島猷一	
4	意識障害、脳死、植物状態								小黑浩明	
5	頭痛、めまい、失神								小黑浩明	
6	運動麻痺、錐体路徴候、筋委縮								小黑浩明	
7	錐体街路徴候、不随意運動								小黑浩明	
8	運動失調								飯島猷一	
9	感覚障害								渡邊達三	
10	高次脳機能障害；失語症								渡邊達三	
11	高次脳機能障害；失認								渡邊達三	
12	高次脳機能障害；失行								渡邊達三	
13	高次脳機能障害；記憶障害、認知症、遂行（実行）機能障害								渡邊達三	
14	構音障害、嚥下障害、脳神経領域の疾患								渡邊達三	
15	脳血管障害								渡邊達三	
16	認知症								渡邊達三	
17	脳腫瘍、外傷性脳損傷								渡邊達三	
18	脊髄疾患								渡邊達三	
19	変性疾患								渡邊達三	
20	錐体街路の変性疾患								渡邊達三	
21	末梢神経障害、てんかん、筋疾患								渡邊達三	
22	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患								渡邊達三	
23	小児神経疾患、廃用症候群と誤用症候群、合併症、排尿障害、性機能障害								渡邊達三	
アクティブ ラーニング										
評価基準	定期試験、小テスト、出席の総合評価で60点以上の得点者を合格とする。60点未満については、再試験を実施する。									
教科書	川平和美編「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学（第5版）」（医学書院）									
参考書	田崎義昭・斎藤佳雄「ベッドサイドの神経の診かた」改訂18版（南江堂）									
実務経験に 関する記述	20年以上臨床経験を持つ神経内科学領域の専門医が、具体的な症例を提示し、実践的教育を行う。									

授業科目名	精神医学		(フリガナ) 担当教官名	和 氣 玲				
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	精神疾患の概要と治療法について学ぶ。 面接、診断方法を学び、本人とその家族をどう支援するのかについても理解する。							
到達目標	①精神疾患の概要と取り巻く環境の基本的知識について理解できる。 ②精神疾患について症状、原因、経過、治療、対応法について理解できる。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	序説・第1章 精神医学とは 第2章 精神障害の成因と分類						和氣	
2	第3章 精神機能の障害と精神症状 第4章 精神障害の診断と評価						和氣	
3	第5章 脳器質性精神障害 第6章 症状性精神障害						和氣	
4	第7章 精神作用物質による精神および行動の障害						和氣	
5	第8章 てんかん						和氣	
6	第9章 統合失調症およびその関連障害						和氣	
7	第10章 気分(感情)障害						和氣	
8	第11章 神経症性障害						和氣	
9	第12章 生理的障害および身体的要因に関連した障害 第13章 成人の人格・行動・性の障害						和氣	
10	第14章 精神遅滞 第15章 心理的発達の障害						和氣	
11	第16章 コンサルテーション・リエゾン精神医学						和氣	
12	第17章 心身医学 第18章 ライフサイクルにおける精神医学						和氣	
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション						和氣	
14	第20章 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション 第21章 社会・文化とメンタルヘルス						和氣	
15	試験						和氣	
アクティブ ラーニング								
評価基準	期末試験(60%)、出席状況や参加態度(40%)							
教科書	「標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)精神医学」第4版 増補版 上野武治 編集 医学書院							
参考書	適宜紹介および資料配布							
実務経験に 関する記述	精神保健指定医、臨床心理士、公認心理師などの資格を持ち、精神科病院で常勤医として20年以上臨床診療に携わる医師が実践的な教育を行う。							

授業科目名	小児科学		(フリガナ) 担当教官名		タケ	タニ	タケシ		
開講学期	後期				竹	谷	健		
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修		
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの特性・正常発達、小児保健の概要を説明する。</li> <li>・小児の疾患を説明して、原因、症状、検査、治療、管理を説明する。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の特徴を理解する。</li> <li>・小児の正常な発育・発達を理解する。</li> <li>・小児の各種疾患の病態、症状、治療法を理解する。</li> </ul>								
回数	授業内容						担当		
1	小児科概論						竹谷 健		
2	小児保健						竹谷 健		
3	小児の診断と治療						竹谷 健		
4	小児の感染症・呼吸器						竹谷 健		
5	小児の循環器						竹谷 健		
6	小児のけいれん疾患						竹谷 健		
7	小児の腎・泌尿器・消化器						竹谷 健		
8	小児の内分泌						竹谷 健		
9	新生児・未熟児						竹谷 健		
10	小児の免疫・アレルギー						竹谷 健		
11	小児の血液・腫瘍						竹谷 健		
12	小児の神経・筋疾患						竹谷 健		
13	先天異常、奇形						竹谷 健		
14	重症心身障害児						竹谷 健		
15	小児科まとめ						竹谷 健		
16	試験						竹谷 健		
アクティブ ラーニング									
評価基準	試験 90%、出席日数・授業態度 10%								
教科書	ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第6版 へるす出版								
参考書	小児科学 改定第10版 文光堂								
実務経験に 関する記述	小児科専門医の認定を持ち、大学病院で臨床診療に携る医師が、日々の診断で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。								

授業科目名	リハビリテーション栄養学		(フリガナ) 担当教官名		ナワタ ケヨ コ子 名和田 清 子		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションを行っている障がい者や高齢者の多くに、低栄養を認めることが明らかとなってきた。本科目では、リハビリテーションと栄養の関連を理解し、障がい者や高齢者の栄養管理を関連職種と連携して行うための知識と技術を習得することを目的とする。具体的には、栄養の概念とその役割を学ぶとともに、栄養管理の実践に必要な栄養補給法や栄養管理プロセス、多職種連携等について学修する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の概念と意義について説明できる。</li> <li>・リハビリテーションと栄養の関連、障がい者や高齢者等における栄養管理の意義について説明できる。</li> <li>・リハビリテーション栄養管理プロセスについて説明できる。</li> <li>・NST (Nutrition Support Team) における理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義を理解する。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	栄養とは 日本人の食生活と栄養素摂取量、健康の現状と課題						名和田清子
2	栄養とは 主な栄養素とその役割、栄養と人体						名和田清子
3	必要栄養素量の算出 日本人の食事摂取基準、エネルギー消費量 栄養補給法						名和田清子
4	リハビリテーションと栄養 リハビリテーション栄養チームにおける PT・OT・ST の役割						名和田清子
5	リハビリテーションと栄養、栄養ケアプロセスとリハビリテーション栄養ケアプロセス						名和田清子
6	低栄養 障がい者・高齢者の栄養管理						名和田清子
7	主な疾患のリハビリテーション栄養 サルコペニアの摂食嚥下障害						名和田清子
8	主な疾患のリハビリテーション栄養 脳卒中他						名和田清子
9	試験						名和田清子
アクティブラーニング	栄養療法のチームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。						
評価基準	期末試験 90%、平常点（授業への参加態度、準備学修の程度、提出物など） 10%						
教科書	PT・OT・ST のための リハビリテーション栄養 第3版 基礎からリハ栄養ケアプロセスまで 若林秀隆 著 医歯薬出版社						
参考書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 栢下淳・若林秀隆 編著・医歯薬出版社						
実務経験に関する記述	国立大学付属病院にて 21 年間の管理栄養士としての実務経験を有すると同時に、国立大学内科での 15 年間の実践研究の実績を有する教員が具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名	薬理学		(フリガナ) 担当教官名		直 良 浩 司		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	薬物療法においては、薬物を投与したときに生じる生体側の反応と、投与された薬物の生体内での変化の両方を考える必要がある。薬物治療に用いられる主要な薬物について、薬理作用、薬物動態ならびに臨床使用上の注意を概説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾病において使用されている主な薬物について、その作用機序を理解する。</li> <li>2. 各疾病において使用されている主な薬物について、体内動態、副作用、適応上の留意事項などの知識を理解する。</li> <li>3. 薬物療法の知識が理学療法・作業療法を受ける患者のケアに応用できる。</li> </ol>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	総論1：薬物療法の概念、薬物の体内動態						直良浩司
2	総論2：薬効に影響する因子、薬物の有害作用						直良浩司
3	各論1：抗感染症薬、抗がん薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬						直良浩司
4	各論2：末梢神経系作用薬（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬）、中枢神経系作用薬（催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬）						直良浩司
5	各論3：中枢神経系作用薬（抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬）						直良浩司
6	各論4：循環器系作用薬（抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬）						直良浩司
7	各論5：循環器系作用薬（利尿薬、血液・造血器系作用薬）						直良浩司
8	各論6：呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、物質代謝作用薬						直良浩司
アクティブ ラーニング							
評価基準	出席状況 20%、期末試験 80%						
教科書	適宜講義資料を配付する。						
参考書	「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」(第15版) 医学書院 「PT・OTのための治療薬ガイドブック：リハビリテーション実施時の注意点」(第1版) メジカルビュー社						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	医療安全・救急救命技術論		(フリガナ) 担当教官名	タニ グチ カオリ 谷 口 かおり ・ 奥出雲町消防士			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義・ 実技	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>【医療安全】 医療の専門職として、医療事故、医療過誤に関する知識を学び、対象者に質の高い、安全な理学療法、作業療法を保證できる能力を養う。</p> <p>【救命救急技術論】 医療人として必要な応急手当や心肺蘇生法についての知識・技術を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>【医療安全】 事例をもとに医療安全に必要な知識を身に付け、医療の専門職としての責務を自覚することができる。</p> <p>【救命救急技術論】 心肺蘇生法および止血法や自動体外式除細動器（AED）について正しく理解し、普通救命講習Ⅱの資格を取得することができる。</p>						
回数	授 業 内 容					担 当	
1・2・3	応急手当の重要性 心肺蘇生法、止血法について 心肺蘇生法に関する知識および技術の確認					奥出雲町 消防士	
4	医療安全の基礎知識					谷口かおり	
5	医療従事者の法的責任					谷口かおり	
6	Team STEPPS					谷口かおり	
7	Team STEPPS					谷口かおり	
8	グループワーク・まとめ					谷口かおり	
アクティブ ラーニング	医療事故の事例から、チーム医療としての必要な安全対策をグループワークで実施する。						
評価基準	認定試験 100% 講義への参加・意欲 40%、グループワークで学修および発表 60%						
教科書	医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 看護学テキスト Nice 改訂第2版 南江堂						
参考書	適宜配布する						
実務経験に 関する記述	<p>【医療安全】 医療安全では、看護師として大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、あらゆる臨床現場での医療安全について、医療過誤の事例などを提示し、実践的教育を行う。</p> <p>【救命救急技術論】 救急救命では、救急救命士の資格を持つ消防士が講師として、全国統一カリキュラムの中でAEDの使用法や、心肺蘇生法等について実技を踏まえて教授し、普通救命講習Ⅱの資格を取得する。</p>						



授業科目名	老年学		(フリガナ) 担当教官名		エン ドウ ケシ 遠 藤 健 史		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>高齢者は、各組織の劣化がみられる。それにより、単純な組織変化だけでも多岐にわたる。そしてその結果、運動・認知機能低下により各種の生活困難がみられる。その困難因子は想像すること、高齢者を視ること学ぶことができるが、多く学生はそれに気づいていないと思われる。本科目で学ぶことも重要であるが、より大事なものは、これから高齢者と関わるなかで高齢者の特徴を発見し続ける態度を身につけることである。そして、その特徴に合わせた対策を検討することが将来の高齢者リハビリ診療を作る根幹となることを期待する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の身体的・認知的な特徴を述べるができる。</li> <li>・それにより起きる障害を予測することができる。</li> <li>・身体機能、認知機能に障害をもつ高齢者のリハビリテーションのあり方を検討することができる。</li> <li>・老年学の知識を活用し、高齢化社会における課題解決について考えることができる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	高齢者の衰弱する身体						遠藤健史
2	退院調整会議：退院に必要な評価と対策						遠藤健史
3	リハビリを困難にする因子：炎症・せん妄						遠藤健史
4	致命的な疾患						遠藤健史
5	よい看取り、触れる効果、Humanitude						遠藤健史
6	情報取得の方法						遠藤健史
7~8	試験の内容を想定した内容について、グループワークを行う。現時点で想定しているのは、退院調整や良い看取りのために何を準備すべきか、という内容である。						遠藤健史
アクティブ ラーニング	学習内容を理解し、認知症の概念と対応について、認知症の各病型の具体的な問題点と対応策について、グループワークを行い学習を深める。						
評価基準	出席点が20%、試験80%で判定し、合計60%以上を単位認定する。60%に満たない場合は、1回に限り再試験を行う。						
教科書	適宜資料を配布する						
参考書	老年医学テキスト第3版（日本老年医学会編 メジカルビュー社） 標準理学療法学・作業療法学・老年学（第4版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
実務経験に 関する記述	隠岐、邑智、雲南、奥出雲と高齢化先進地域で勤務。内科的診療を中心とし、認知症対策、運動器疼痛対策をサブスペシャリティーとしてきた。現在、奥出雲病院では総合診療科として、その診療の延長を行い、地域作りに貢献したいと考えている。						

授業科目名	医療コミュニケーション演習		(フリガナ) 担当教官名		ヤマモト マリ子		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	理学療法士・作業療法士の関わりは、個人や集団の意思決定に影響を与える。本科目では、理学療法士・作業療法士に求められる高度なコミュニケーション能力の必要性、重要性について理解を深め、演習を通して対象者の意思決定に必要なコミュニケーション技能を養う。加えて、チーム連携の上で必要な多職種間でのコミュニケーションについても学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。</li> <li>・患者及び他職種の思いを引き出すことができる。</li> <li>・他者に意思を伝え、意思決定をすることができる。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論での学びについて振り返り、医療コミュニケーション演習の目的、概要について説明する。						山本真理子
2	両学科の学生同士で、テーマ1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
3	両学科の学生同士で、テーマ2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
4	両学科の学生同士で、テーマ3に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
5	両学科の学生同士で、テーマ4に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
6	両学科の学生同士で、課題1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
7	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方がることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
8	両学科の学生同士で、課題2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
9	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方がることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
10~11	両学科の学生同士で、症例の課題1に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
12	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方がることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
13	両学科の学生同士で、症例の課題2に対し感じたこと、考えたことについてディスカッションをし、まとめる。(目的を持ったコミュニケーションを試してみる。)						山本真理子
14	グループ討論の中でさまざまな立場や考え方がることを理解し、自分の考えをまとめ、報告し合う。加えて、グループ検討上での話し手・聴き手・環境の面から良かった点、難しかった点、改善点を挙げ、まとめる。						山本真理子
15	まとめ						山本真理子
アクティブ ラーニング	医療、地域の現場における医療コミュニケーションについて、グループワーク型式を中心に学習し、発表を行う。						
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%						
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）						
参考書	京極真（著）『信念対立解明アプローチ入門－チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』（中央法規出版） 水本清久ほか（編著）『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版）						
実務経験に 関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。						

授業科目名	研究方法論Ⅱ		(フリガナ)		ハナ オカ ヒデ アキ 花 岡 秀 明		
開講学期	前期・後期		担当教官名		ヤマモト マ リ コ アオキ リユウタロウ ヨシダ シュンスケ 山本真理子・青木竜太郎・吉田 俊輔		
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	研究方法論Ⅰに引き続き、研究の基本的考え方、研究過程やデザインなどに加え、研究計画立案に必要な知識や注意点についても学習する。そして、本科目では、研究テーマを具体的に設定し、研究計画書を作成し、研究の実施から発表までの一連の過程を経験することで、作業療法士に必要とされる基本的な研究能力を育成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究デザインの種類や統計手法を理解し、研究計画書を作成できる。</li> <li>論文を批判的に吟味できる。</li> <li>研究計画書に基づくプレゼンテーション資料を作成し発表できる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション 研究の基礎知識① 基本的考え方、研究過程、研究デザインの理解を深める。						花岡
2	研究の基礎知識② 文献レビュー、研究疑問から仮設の設定、研究計画書の作成に必要となるポイントを理解する。						花岡
3	文献抄読① 文献抄読を通して、研究論文の基本的構成を理解し、研究計画書の作成に役立つ。						花岡
4	文献抄読② 文献抄読を通して、研究論文の基本的構成を理解し、論文を批判的に読む力を養う。						花岡
5	研究計画書と倫理的配慮 仮のテーマを用いて研究計画作成の基礎を学ぶ。 研究を実施する上での倫理上の配慮について学ぶ。						花岡
6	研究テーマの模索① 研究の基本的な進め方を確認する。 自分自身の研究につながる問題の抽出を行う。						花岡
7	研究テーマの模索② 問題に関係した文献レビューを行う。						花岡
8	研究テーマの模索③ 研究テーマの模索①②の演習に続き、同様の問題に関係した文献レビューを行い、情報の整理を行う。						花岡
9	研究テーマの模索④ これまでの文献レビュー情報を基に、現時点における研究テーマの作成につなげる。						花岡
10~28	研究デザイン、研究計画書の作成 担当教員の指導のもと研究デザイン、研究計画書の作成を行う						OT学科教員
29~30	発表						OT学科教員
アクティブ ラーニング	グループワークにてプレ研究の体験、研究計画書の作成、およびプレゼンテーションを行う。						
評価基準	授業への出席状況・態度:20%、研究計画書:50%、プレゼンテーション:30%で判定する。						
教科書	適宜資料を配布する						
参考書	特になし						
実務経験に 関する記述							

授業科目名	評価法 I (身障) - 2		(フリガナ) 担当教官名		アオ 青	キ 木	リュウタロウ 竜太郎	ニシコ 錦	オリ 織	ケン 健	ジ 次
開講学期	前期										
対象学科 及び学年	作業療法学科	2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修			
科目概要	作業療法に必要な身体障害領域の評価の意義と測定方法を理解することを目的とする。併せて障害像の理解と原因を把握するための検査項目の選択や方法を演習を通じて学ぶ。各検査に対して、評価の意義や目的、方法、注意事項、記録方法、対象者への説明と同意について講義と実技を通じて学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害領域の評価の意義を理解し、必要に応じて検査を選択することができる。</li> <li>・対象者に説明と同意を得た上で安全に配慮しながら検査を実施することができる。</li> <li>・結果について正確に記録を行った上で対象者に説明できる。</li> </ul>										
回数	授 業 内 容									担 当	
1	感覚の理論と評価の実践 (表在・深部・複合感覚など)									青木・錦織	
2	感覚の理論と評価の実践 (表在・深部・複合感覚など)									青木・錦織	
3	感覚の理論と評価の実践 (表在・深部・複合感覚など)									青木・錦織	
4	バランス機能の理論と評価の実践 (FRT・TUG・FBS 等)									青木・錦織	
5	バランス機能の理論と評価の実践 (FRT・TUG・FBS 等)									青木・錦織	
6	バランス機能の理論と評価の実践 (FRT・TUG・FBS 等)									青木・錦織	
7	上肢機能の理論と評価の実践 (STEF・ARAT)									青木・錦織	
8	上肢機能の理論と評価の実践 (STEF・ARAT)									青木・錦織	
9	徒手筋力検査法 (MMT) 総論 (検査選択、記録、対象者への説明等)									青木・錦織	
10	徒手筋力検査法 (MMT) 上肢 (実技)									青木・錦織	
11	徒手筋力検査法 (MMT) 上肢 (実技)									青木・錦織	
12	徒手筋力検査法 (MMT) 体幹・頸部・手指 (実技)									青木・錦織	
13	徒手筋力検査法 (MMT) 下肢 (実技)									青木・錦織	
14	徒手筋力検査法 (MMT) 下肢 (実技)									青木・錦織	
15	徒手筋力検査法 (MMT) 全範囲 (実技)									青木・錦織	
アクティブ ラーニング	アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高めながら、実技の実践を体験する学習方略を取る。										
評価基準	筆記試験 40%、実技試験 60% で成績判定を行う。 ただし、実技試験全 3 回：前半 (感覚検査とバランス検査)・中間 (MMT 上肢・手指)、後半 (MMT 下肢・体幹)。 筆記試験と実技試験は別々で可否を出し、基準以下の場合は再試験を実施する。										
教科書	1. 潮見泰蔵他編；リハビリテーション基礎評価学 第 2 版、羊土社 2. 新・徒手筋力検査法 原著第 10 版、協同医書出版										
参考書	田崎義昭 (著)：ベッドサイドの神経の診かた 第 18 版、南山堂										
実務経験に 関する記述	回復期リハビリテーション病院、総合病院、老人保健施設において 8 年以上の専任作業療法士として従事し、身体障害および老年期障害に対する個別作業療法を実践した教員が担当となり、作業療法評価について理論から実践について、障害や症状に応じて実践教育を行う。										

授業科目名	評価法Ⅱ（精神）		（フリガナ） 担当教官名	ツダ マコト 宏太郎			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	精神障害領域における評価の意義を理解することを目的とする。 また各種検査項目、面接、観察の技法を学び治療アプローチへスムーズに繋げられるように学習する。						
到達目標	精神疾患を持った方へ適切な評価を実施できるようになる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション						津田宏太郎
2	精神疾患に対する評価法を知る						津田宏太郎
3	精神疾患に対する評価法を知る						津田宏太郎
4	心理検査について						津田宏太郎
5	心理検査について						津田宏太郎
6	統合失調症に対する評価						津田宏太郎
7	統合失調症に対する評価						津田宏太郎
8	うつ病に対する評価						津田宏太郎
9	うつ病に対する評価						津田宏太郎
10	観察について						津田宏太郎
11	面接について						津田宏太郎
12	観察・面接のグループワーク演習						津田宏太郎
13	観察・面接のグループワーク演習						津田宏太郎
14	観察・面接のグループワーク演習						津田宏太郎
15	臨床における評価の実際						津田宏太郎
アクティブ ラーニング	各種評価バッテリーを用いた評価法や面接、観察などをグループワークを通して実際に体験し、ディスカッションを行い理解を深め、技術を修得する。						
評価基準	期末試験 90% 出席日数・授業態度 10%						
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編集 中央法規出版						
参考書	山根 寛著：精神障害と作業療法、第3版、三輪書店 松井紀和著：精神科作業療法の手引き、牧野出版 早坂友成著：精神科作業療法の理論と技術、MEDICAL VIEW 社						
実務経験に 関する記述	精神科病院において12年間従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における評価法を具体的な事例を提示し、教育を行う。						

授業科目名	評価法Ⅲ（発達）		（フリガナ） 担当教官名		ニシコ オリ ケン ジ ヤマ モト マリコ 錦 織 健 次 ・ 山 本 真 理 子			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	発達障がい領域に関わる作業療法の役割を理解し、基礎的学力を身に付ける。 発達障がい領域の作業療法治療に必要な評価内容を習得する。							
到達目標	1. 正常発達と反射・反応を習得する。 2. 小児分野における身体・精神・社会・言語的評価方法を習得する。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	Ⅰ. オリエンテーション 発達障がい領域の歴史・社会的背景						錦織健次	
2	発達の基礎（運動発達、上肢機能、目と手の発達、反射・反応、認知機能、社会性）						錦織健次	
3	遊びの発達と遊びを通じた作業療法評価						錦織健次	
4	Ⅱ. 疾患に特化した作業療法評価 肢体不自由児・者の作業療法評価 その①						錦織健次	
5	肢体不自由児・者の作業療法評価 その②						錦織健次	
6	重症心身障がい児・者の作業療法評価 その①						錦織健次	
7	重症心身障がい児・者の作業療法評価 その②						錦織健次	
8	知的障がい・発達障がい（自閉スペクトラム症、ADHD、LD）の作業療法評価						錦織健次	
9	検査・評価法（全般的発達検査、知能検査、運動機能検査等）						錦織健次	
10	保育／介護者からみた評価 乳幼児健診と作業療法評価						錦織健次	
11	海外の教育と学校作業療法						二澤、中本 山本	
12	学校作業療法の実践オリエンテーションと実践①						二澤、村上 山本	
13	実践と振り返り①						二澤、村上 山本	
14	学校作業療法の実践オリエンテーションと実践②						二澤、村上 山本	
15	実践、振り返り②						二澤、村上 山本	
アクティブ ラーニング	各種評価をビデオやグループ毎にディスカッションを繰り返しながら実践する。加えて現場での実践を通し技術を習得する。							
評価基準	期末テスト80%、レポート10%、授業態度と出席状況10%							
教科書	統合と解釈のための小児リハ評価ガイド メディカルビュー社							
参考書	イラストでわかる発達障害の作業療法第1版第1刷. 上杉雅之、辛島千恵子編集. 医歯薬出版株式会社. 2016							
実務経験に 関する記述	発達障がい児者を対象とした作業療法実践に9年間従事した教員が、発達の基礎を抑えた上で発達障がい児者に対する評価の実践を教育する。							

授業科目名	評価法Ⅳ（高次脳）		（フリガナ） 担当教官名		アオキ リュウタロウ 青木 竜太郎		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	高次脳機能障害は、作業療法の対象者に比較的好く見られる障害である。その圧倒的多数が脳原性疾患をもっているという現実からきている。本科目では、高次脳機能障害における基本的な概要や症状鑑別を行うための脳画像の見かたについて学び、高次脳機能障害を適切に評価できるようになることを目指す。						
到達目標	①高次脳機能障害に関する基本的な概念を理解することができる。 ②脳画像の読解に必要な基礎知識を身につけることができる。 ③高次脳機能障害に対する評価のプロセスや神経心理学的検査の方法を学ぶ。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	高次脳機能障害とは（総論）：定義および治療原則について						青木竜太郎
2	脳画像の見かた（総論）：画像読解に必要な基礎知識						青木竜太郎
3	高次脳機能障害とは（各論）：脳の神経解剖と画像の見方						青木竜太郎
4	高次脳機能障害における評価の基礎・組み立てかた						青木竜太郎
5	高次脳機能障害におけるスクリーニング評価						青木竜太郎
6	注意障害の概論と評価の実践①						青木竜太郎
7	注意障害の概論と評価の実践②						青木竜太郎
8	記憶障害の概論と評価の実践①						青木竜太郎
9	記憶障害の概論と評価の実践②						青木竜太郎
10	遂行機能障害の概論と評価の実践①						青木竜太郎
11	遂行機能障害の概論と評価の実践②						青木竜太郎
12	半側空間無視の概論と評価の実践①						青木竜太郎
13	半側空間無視の概論と評価の実践②						青木竜太郎
14	失認・失行・失語の概論と評価の紹介						青木竜太郎
15	自動車運転評価の実際						青木竜太郎
アクティブ ラーニング	・シラバスから学修内容を理解し、各回におけるテーマを事前に予習し授業に臨む。 ・アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。						
評価基準	期末試験（100%）：講義内容の知識の定着を確認する。						
教科書	鎌倉矩子・本多留美：高次脳機能障害の作業療法 第一版 三輪書店 高次脳機能障害マエストロシリーズ② 画像の見かた・使い方 医歯薬出版 高次脳機能障害マエストロシリーズ③ リハビリテーション評価 医歯薬出版						
参考書	高次脳機能障害マエストロシリーズ① 基礎知識のエッセンス 医歯薬出版						
実務経験に 関する記述	総合病院において、8年間専任作業療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における高次脳機能障害の治療に関わった教員が、障害や症状を評価するための脳画像や検査、観察方法について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。						

授業科目名	作業療法治療学 I-1(中枢系)		(フリガナ) 担当教官名		アオ キ リュウタロウ モリ フキ シゲ ト 青 木 竜太郎・森 脇 繁 登			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	作業療法における身体障害領域(中枢神経疾患)の各種疾患について、その障害を理解し、対象者を作業的存在として捉えた上での対象者への直接的、また環境や社会の観点を包含した評価・治療・援助方法を学ぶ。授業内での講義・演習等を通じ、医療・福祉領域での作業療法士の求められる役割を再考する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経疾患の作業療法の流れを理解し、説明できる。</li> <li>・各疾患の特徴(症状と障害)を説明できる。</li> <li>・各疾患ごとに必要な評価項目を選択・実施できる。</li> <li>・各疾患に必要な治療・援助方法を提案でき、一部模擬実施できる。</li> <li>・身体障害分野での作業療法士の役割と職種の意義について説明できる。</li> </ul>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	身体障害作業療法概論						青木竜太郎	
2	身体障害作業療法概論・脳画像診断						青木竜太郎	
3	作業療法評価(協調性検査・筋緊張 MAS)						青木竜太郎	
4	作業療法評価(MAL・片麻痺検査 BRS、FMA、上田 12 グレード)						青木竜太郎	
5	作業療法評価(MAL・片麻痺検査 BRS、FMA、上田 12 グレード)						青木竜太郎	
6	片麻痺患者に対する治療の検討						青木竜太郎	
7	片麻痺患者に対する治療の演習						青木竜太郎	
8	片麻痺患者に対する姿勢分析(臥位・座位・立位)						青木竜太郎	
9	片麻痺患者に対する動作分析(寝返り・起居・立ち上がり・歩行)						青木竜太郎	
10	片麻痺患者に対する動作分析(寝返り・起居・立ち上がり・歩行)						青木竜太郎	
11	片麻痺患者の日常生活活動における自助具・福祉用具の選定						青木竜太郎	
12	片麻痺患者の日常生活活動分析演習						青木竜太郎	
13	片麻痺患者の日常生活活動分析演習						青木竜太郎	
14	基本的治療技術概論(ROM-ex、筋力増強、CI療法、促通反復療法、神経筋促通法、電気刺激療法)						青木竜太郎	
15	基本的治療技術演習(ROM-ex、筋力増強)						青木竜太郎	
16	模擬事例に対する演習(評価立案・ICF分類)						青木竜太郎	
17	模擬事例に対する演習(ICF分類)						青木竜太郎	
18	模擬事例に対する演習(臨床思考図)						青木竜太郎	
19	模擬事例に対する演習(治療立案)						青木竜太郎	
20	模擬事例に対する演習(発表・統合と解釈の体験)						青木竜太郎	
21	トランスファー演習(技術と治療の視点)						青木竜太郎	
22	トランスファー演習(技術と治療の視点)						青木竜太郎	
23	ポジショニング演習(褥瘡予防・臥位での活動性向上)・シーティング演習(機能的シーティング)						青木竜太郎	
24	ポジショニング演習(褥瘡予防・臥位での活動性向上)・シーティング演習(機能的シーティング)						青木竜太郎	
25	神経筋疾患の作業療法(概要・症状・リハビリ内容等をまとめる)						青木竜太郎	
26	神経筋疾患の作業療法(概要・症状・リハビリ内容等をまとめる)						青木竜太郎	
27	神経筋疾患の作業療法(概要・症状・リハビリ内容等をまとめる)						青木竜太郎	
28	神経筋疾患の作業療法(発表)						青木竜太郎	
29	神経筋疾患の作業療法の実践						森脇繁登	
30	神経筋疾患の作業療法の実践						森脇繁登	
アクティブ ラーニング	アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。							
評価基準	期末試験：60% 実技試験：40% ただし、期末試験・実技試験はそれぞれに基準を設ける。一方で60%未満の場合は、期末試験、実技試験、またはその両方が再試験とする。							
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮見泰蔵他編：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社</li> <li>・柴喜崇編：PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社</li> </ul>							
参考書	授業の進行とともに適宜紹介する <ul style="list-style-type: none"> <li>・菅原洋子編 作業療法全書4 身体障害 改訂第3版 協同医書</li> <li>・山本伸一編 中枢神経疾患に対する作業療法 第1版 三輪書店</li> </ul>							
実務経験に 関する記述	総合病院において、8年間専任作業療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における神経疾患の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。							



授業科目名	作業療法治療学Ⅱ(精神)-1		(フリガナ) 担当教官名	津 田 宏太郎			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授 業 形 態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	作業療法における精神障害領域の各種疾患について、障害特性を理解し、疾患を持たれた対象者に対し適切な評価、治療計画を立てられるような講義を実施する。 また、国家試験や臨床実習を想定した学習も行う。						
到達目標	各種精神疾患に対して適切なアプローチ(評価、目標立案、治療)を実施できるようになる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション						津田宏太郎
2	精神科作業療法の歴史						津田宏太郎
3	精神科医療の基礎知識						津田宏太郎
4	統合失調症急性期に対する作業療法						津田宏太郎
5	統合失調症急性期に対する作業療法						津田宏太郎
6	統合失調症回復期に対する作業療法						津田宏太郎
7	統合失調症回復期に対する作業療法						津田宏太郎
8	統合失調症維持期に対する作業療法						津田宏太郎
9	統合失調症維持期に対する作業療法						津田宏太郎
10	統合失調症症例を用いたアプローチ(グループワーク)						津田宏太郎
11	国家試験から見る統合失調症						津田宏太郎
12	国家試験から見る統合失調症						津田宏太郎
13	国家試験から見る統合失調症						津田宏太郎
14	SSTについて						津田宏太郎
15	SSTについて						津田宏太郎
アクティブ ラーニング	指定されたテーマについて、グループワークを行いながら、知識の定着や理解を促す。						
評価基準	期末試験 90% 出席日数・授業態度 10%						
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編集 中央法規出版						
参考書	富岡詔子、小林正義編:作業療法全書(改定第3版)第5巻「作業治療学2 精神障害」、日本作業療法士会、協同医書出版						
実務経験に 関する記述	精神科病院において12年間従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における治療法を具体的な事例を提示し、教育を行う。						

授業科目名	義肢学		(フリガナ) 担当教官名		オオ 大	ツカ 塚	アキラ 彰	
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	<p>下肢義肢・上肢義肢義肢（義足・義手）に関して、理学療法士・作業療法士に必要な基本的な知識を学修します。すなわち、義足においては基本的な構造、ソケットの種類、ベンチアライメント・静的アライメント・動的アライメントなどを学びます。義手に関しては、処方からパーツを考えて実習として、弾力包帯の施行とギプス採型の実際を経験します。</p>							
到達目標	義肢の実際および切断のリハビリテーションの実際を理解する。							
回数	授業内容						担当	
1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢とは・大腿義足（ソケット、膝継手、足部）</li> <li>・大腿義足（ベンチ・静的・動的アライメント）</li> <li>・大腿義足（異常歩行とその修正）</li> </ul>						大塚 彰	
4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下腿義足（各種ソケット・アライメント・異常歩行）</li> <li>・股義足・膝義足・サイム義足の特色</li> <li>・下肢切断者のリハビリテーション（評価・ポジショニング・断端ケアとしての弾力包帯の施行など）</li> </ul>						大塚 彰	
7・8・9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義手：分類・処方と義手構成・機構など（1）</li> <li>・処方と構成・機構など部品の解説（2）</li> <li>・機構と部品の解説（3）</li> </ul>						大塚 彰	
10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハーネスコントロールシステムなど</li> <li>・義手のチェック</li> <li>・電動義手</li> </ul>						大塚 彰	
13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習（ギプス採型など）</li> <li>・実習</li> <li>・実習</li> </ul>						大塚 彰	
アクティブ ラーニング	ギプス採型実習および模擬義肢の試着 切断者を知るための経験として							
評価基準	出席、態度、テスト等で総合判定する							
教科書	① 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 中山書店 第2版 ISBN コード 978-4-521-73225-1 ② 義肢装具のチェックポイント 医学書院 第9版							
参考書	① イラストでわかる義肢療法 医歯薬出版株式会社							
実務経験に 関する記述	徳島大学付属病院・愛媛大学付属病院での切断者のリハビリテーションの経験および筋電制御電動義手、特にハンドの開発研究に従事							

授業科目名	地域マネジメント論		(フリガナ) 担当教官名		クモ	ダ	コウ	ジ	
開講学期	前期				雲	田	耕	治	
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別		必修	
科目概要	この授業では地域実践活動を通じて一般高齢者と面接をし、作業の実現や質向上に向けた課題をMTDLPの演習シートを活用しながら見つけていくことを目的としている。学生は評価と一部介入を経験し、地域実践活動内での企画実施に向け、文献レビューやリハーサルを繰り返し、企画を練っていく。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域実践活動演習の中で、面接を通して高齢者の作業の現状を把握するための評価が実施できる。</li> <li>2. MTDLPの演習シートを活用して、高齢者の生活行為に対するアセスメントを行うことができる。</li> <li>3. 地域実践演習での面接・観察を通して得られた情報を分析し、作業の実現や質向上に向けた企画を考えることができる。</li> <li>4. 高齢者の安全面に配慮しながら企画を実施することができ、知り得た情報を厳守することができる。</li> </ol>								
回数	授 業 内 容							担 当	
1	オリエンテーション 授業の目的・到達目標・授業の概要・学修の準備について担当教員が説明する。							雲田耕治	
2~6	演習① 地域実践活動演習に参加し、地域在住の高齢者に対して面接を行う。生活行為聞き取りシートを活用しながら、対象者の作業の現状について聴取していく。また、活動中の観察を通して、作業分析に必要な情報を収集する。							雲田耕治	
7~10	演習② 地域実践活動演習で得られた情報を基にグループ毎にディスカッションを行う。生活行為アセスメント演習シートを活用して、高齢者の生活行為に対するアセスメントし、作業の実現や質向上に向けた企画を考える。							雲田耕治	
11~14	演習③ グループ毎に立案した企画を地域実践活動演習にて実施する。実施の際は参加高齢者の安全面に配慮しながら企画を実施する。							雲田耕治	
15	演習④ 地域実践活動演習で実施した内容に対して各グループで振り返りを行い、企画した内容が高齢者にどのような影響を与えたかの効果検証を行う。							雲田耕治	
アクティブ ラーニング	地域実践活動演習の中で得られた情報を基に、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。								
評価基準	演習への取り組み姿勢 70%、演習シート 30% ※学習意欲については課題レポートの提出期日が厳守できているか、演習に対する取り組み姿勢、出席状況にて評価する。								
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人日本作業療法士協会編著：作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版</li> <li>・一般社団法人日本作業療法士協会編著：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版株式会社</li> </ul>								
参考書									
実務経験に関する記述	急性期から生活期まで20年以上の臨床経験を持つ教員が担当する。								

授業科目名	地域作業療法論		(フリガナ) 担当教官名		クモ	ダ	コウ	ジ	
開講学期	後期				雲	田	耕	治	
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別		必修	
科目概要	地域包括ケアシステムでは保健・福祉の視点をふまえ、医療と連携した患者及び障害児者、高齢者の日常生活、就労、就学など分野を越えた多岐に渡る支援が作業療法士に求められる。この授業では障害の有無に関わらず、地域における作業療法支援を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域作業療法の基盤と背景について説明できる。</li> <li>・地域作業療法を支える制度について説明できる。</li> <li>・地域作業療法支援（評価、アセスメント、介入、他）が模擬的に実施できる。</li> </ul>								
回数	授 業 内 容								担 当
1	オリエンテーション：授業の目的・到達目標・授業の概要・グループ決め・学修の準備（課題作成と準備物の連絡）について担当教員が説明する。 地域作業療法の基盤と背景：地域という言葉の意味、地域医療の成り立ちについて								雲田耕治
2	地域作業療法の基盤と背景：地域リハの概念、ノーマライゼーションについて								雲田耕治
3	地域作業療法の基盤と背景：地域 OT の基盤、生活障害・医学モデルと生活モデルについて								雲田耕治
4	地域作業療法の基盤と背景：CBR の考え方について								雲田耕治
5	地域作業療法を支える制度：社会保障制度、介護保険制度について								雲田耕治
6	地域作業療法を支える制度：介護予防と地域支援、ソーシャルサポート・ネットワークのシステムについて								雲田耕治
7	地域診断について								雲田耕治
8	地域診断の実践（一部）								雲田耕治
9	発表								雲田耕治
10	地域 OT の実践：ニーズの発掘、目標設定、地域 OT におけるチームアプローチについて								雲田耕治
11	地域 OT の実践：地域における評価とアセスメントについて								雲田耕治
12	地域診断を基にアセスメントをして課題を見つける								雲田耕治
13	課題に対する作業療法士が貢献できる関わりを考える								雲田耕治
14	発表								雲田耕治
15	作業療法士が貢献できる地域についてまとめる								雲田耕治
アクティブ ラーニング	学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。								
評価基準	グループワーク成果物及び発表 60%、レポート 30%、授業態度（グループワークへの参加、発表等） 10%								
教科書	大熊 明編集：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学. 第 4 版、医学書院.								
参考書	一般社団法人日本作業療法士協会編著太田睦美編集：作業療法学全書第 13 巻地域作業療法学. 改訂第 3 版、協同医書								
実務経験に 関する記述	急性期から生活期まで 20 年以上の臨床経験を持つ教員が担当する								

授業科目名	臨床実習 I		(フリガナ) 担当教官名		各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目である。</p> <p>業務の見学や補助を通じて、作業療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を育成することを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士の基本的な業務内容を理解できる。</li> <li>・関連職種との連携の重要性を理解できる。</li> <li>・掃除、送迎、雑用等の業務を補助できる（診療補助は除く）。</li> <li>・社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度をとることができる。</li> </ul>						
<b>授 業 内 容</b>							<b>担 当</b>
<p>臨床実習</p> <p>時間：40 時間（1 週間：5 日間）</p> <p>場所：医療施設もしくは医療外施設</p> <p>内容：業務の見学や補助を通じて、作業療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を身に付ける。</p> <p>詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。</p> <p>1 週間の施設実習時間は、40 時間とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内とする。</p>							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。						
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習態度 30%、臨床実習後の提出課題内容 30% 実習報告会の内容 40%						
教科書	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 臨床実習要綱						
参考書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者が担う。						

授業科目名	総合演習Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名	理学・作業療法学科教員			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、理学療法・作業療法の対象となる臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科学の知識を統合することを目的としている。授業前の事前学習後に講義を行い、グループワークを中心に理解を深めていく。						
到達目標	2年次に学修すべく臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科学を復習し、その知識を用いて3年次に行う理学療法治療学・作業療法治療学に応用していく基礎を身につけることができる。						
回数	授業内容						担当
1～4	精神医学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員
5～8	脳血管疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員
9～16	神経筋疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員
17～22	臨床心理学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員
23～30	整形外科疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員
アクティブ ラーニング	<p>病態の解釈および到達度に沿った暗記、暗記確認に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科目担当教員から事前に分野についての資料提示がある。その後、学生は個人で事前学習として資料内容を確認しておく。</li> <li>2. 科目担当教員が講義後、理解を深める。</li> <li>3. 分野について暗記・口頭試問などを行い、理解の程度を確認する。</li> <li>4. 科目担当教員は過去問題を提示する。その後、学生は問題を解き、間違えた問題について、問題の解釈や解き方等について復習する。</li> </ol>						
評価基準	<p>試験 90%、出席状況 10%にて評価する。          ※試験は、各分野の講義後（1週間後）に実施する。          5分野毎に試験（それぞれ100点）を行う。試験において60点に到達しない場合は再試験を受験することができる。</p>						
教科書	適宜、資料を配布する						
参考書	国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック						
実務経験に関する記述							

授業科目名	障がい者スポーツ		(フリガナ)		堀江貴文		
開講学期	前期		担当教官名				
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要	障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について講義する。障がい者スポーツにおける用具の工夫やルールについて実践を通して学ぶ。また、障がいに合わせたスポーツの導入や指導方法について実技を交えて体得する。本カリキュラムをすべて履修することにより、初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者スポーツの意義と理念や様々な障がいについて説明できる。</li> <li>障がい者スポーツのルールや技術、指導法を体得し、指導できる。</li> <li>初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視しスポーツの導入を支援出来る。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション(本科目の到達目標、内容、日程、等) 自己紹介・グループ決め						堀江貴文
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質(講義)</li> <li>スポーツのインテグリティとは(スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題)</li> <li>スポーツ指導者に求められる資質・能力</li> <li>障がい者スポーツ指導者の役割・心構え・視点</li> <li>ボランティアの魅力、ボランティアの心得、留意点</li> </ul>						堀江貴文
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者スポーツの意義と理念(講義)</li> <li>障がい者個人における意義(身体的・精神的効果)</li> <li>スポーツ界および社会一般へおける意義(共生社会の創造、パラリンピックの効果)</li> <li>障がい者スポーツの理念(Drグッドマンの考え方や功績、実践上・指導上の理念)</li> </ul>						堀江貴文
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションスキルの基礎(講義・演習)</li> <li>よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションのための留意点</li> <li>よい人間関係をつくるために必要なこと</li> <li>スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル</li> <li>障がい特性に応じたコミュニケーション方法</li> <li>実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する</li> </ul>						堀江貴文
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人との交流(実習)</li> <li>障がい者スポーツ大会へのボランティア参加を通じた実習等</li> </ul>						堀江貴文
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者スポーツ推進の取り組み(講義)</li> <li>各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題(日本障がい者スポーツ協会ビジョンを含む)</li> <li>障がい者スポーツ指導者制度の概要</li> <li>地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について</li> <li>資格取得後の活動方法と情報入手方法</li> </ul>						堀江貴文
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者スポーツに関する諸施策(講義)</li> <li>障がい者福祉施策とその変遷(障害者基本法・障害者差別解消法・移動支援・身体障害者福祉法・障害者総合支援法)</li> <li>障がい者の生活と実態(障がい者数、利用福祉サービス)</li> <li>障がい者スポーツに関する施策(スポーツ基本法、スポーツ振興体制、スポーツ基本計画とその振興)</li> </ul>						堀江貴文
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理(講義)</li> <li>スポーツ指導者の安全配慮義務(心得・リスクマネジメントの基礎)</li> <li>基礎的な対処法について(救命手当、応急手当、AED、CPR等)※基礎理論のみ</li> <li>ヒヤリ・ハット事例(熱中症、転倒、水分補給)</li> </ul>						堀江貴文
9~10	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障がい(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がいを含む)の理解(講義)</li> <li>各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。</li> <li>スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。</li> </ul>						堀江貴文
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障がい(発達障がいを含む)の理解(講義)</li> <li>各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける</li> <li>スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。</li> </ul>						堀江貴文
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障がいの理解(講義)</li> <li>各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける</li> <li>スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。</li> </ul>						堀江貴文
13~14	<ul style="list-style-type: none"> <li>各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(実技)</li> <li>(グループワークにて障がい者に対するスポーツ指導の工夫を考え実践し、発表を行う)</li> </ul>						堀江貴文
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国障害者スポーツ大会の概要(講義)</li> <li>全国障害者スポーツ大会の歴史、開催の意義・目的</li> <li>大会競技規則の原則(基準要綱、基本方針など)</li> <li>大会実施競技の紹介</li> </ul>						堀江貴文
アクティブラーニング	グループに分かれ、PBL(problem-based learning)にて障がい者スポーツ指導の実践方法を学ぶ。						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内での積極性・態度・発言などにより総合的に評価する。</li> <li>※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。</li> <li>※2~15回の授業については、1回でも欠席があった場合、初級障がい者スポーツ指導員資格の取得が出来なくなる。</li> </ul>						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)―2020年改訂カリキュラム対応―(株式会社ぎょうせい)</li> <li>全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)―令和2年度版―(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会)</li> </ul>						
実務経験に関する記述	日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導員養成講座を受講し、障がい者スポーツ指導員の資格を有している教員が、各障がいの主な特性に配慮しながら安全にスポーツを実施させるために必要な基礎知識を教授し、地域にある障がい者福祉施設に対し、スポーツおよびレクリエーション指導に取組み実践的教育を行う。						

授業科目名	レクリエーション		(フリガナ) 担当教官名		カナ	フル	ケイ	ヨ	
開講学期	通年				金	弦	敬	子	
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択		
科目概要	障がい児・者や高齢者を含む全ての人のに対応できるレクリエーションについて理論と技術を学ぶ。レクリエーションの効果について科学的根拠に基づいた評価を一部体験する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションの考え方を理解し、説明することができる。</li> <li>レクリエーションの技術を修得し、実施することができる。</li> <li>レクリエーションインストラクター (RI) の資格を取得する。</li> </ul>								
回数	授業内容							担当	
1	I. レクリエーション概論 レクリエーションの成り立ち・歴史の変遷を理解する。							金弦敬子	
2	レクリエーション支援の種類と目的と支援理論 レクリエーションインストラクターの役割							金弦敬子	
3	II. 楽しさと心の健康づくりの理論 楽しさを感じる心の仕組み、及び心の仕組みを根拠にした支援							金弦敬子	
4	楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、ライフステージと心の元気づくり							金弦敬子	
5	地域のきずなづくりとレクリエーション							金弦敬子	
6	III. レクリエーション支援理論 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 (気持ちを一つにするための意思疎通)							金弦敬子	
7	レクリエーション活動を通じた良好な集団づくりの理論							金弦敬子	
8	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 レクリエーション展開の見学体験							金弦敬子	
9	見学体験を分析しレクリエーション支援理論を分析する。 (担当教員が実際の現場で展開するレクリエーションを見学・一部体験する)							金弦敬子	
10	IV. レクリエーション支援の方法 ホスピタリティとアイスブレイキングの効果							金弦敬子	
11	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法							金弦敬子	
12	リスクマネジメントの方法 (疾患別)・プログラムの立案方法							金弦敬子	
13	レクリエーション活用の方法論 (対面・オンラインとEBMに基づいた効果検証方法)							金弦敬子	
14	レクリエーションプログラム立案							金弦敬子	
15	プログラムの実践と検証							金弦敬子	
16	V. レクリエーション活動の実践 対象者の目的に応じた支援方法の抽出と実施 (歌・ゲーム・音楽に合わせた身体活動等)							金弦敬子	
17	信頼関係づくりの方法とホスピタリティの実践							金弦敬子	
18	良好な手段づくりの方法とアイスブレイキングのプログラム立案と実践							金弦敬子	
19	自主的・主体的に楽しむ力を育む展開法の実践							金弦敬子	
20	楽しむ力を高める目標設定の実践							金弦敬子	
21	レクリエーション活動の修得と対象者に合わせるアレンジ							金弦敬子	
22	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法 (CSS プロセス) の実践							金弦敬子	
23	実践におけるリスク管理と環境設定							金弦敬子	
24~27	目的別実践・グループ実践 目的・企画の立案と修正、実践、目的の効果検証、実践した結果に基づく課題の抽出 レクリエーションリーダーの体験、改善に向けた振り返り							金弦敬子	
28	対象者とのレクリエーション実践と評価及び改善							金弦敬子	
29	疾患別レクリエーションのリスク管理プログラム立案							金弦敬子	
30	試験							金弦敬子	
アクティブラーニング	講義で学修した理論を活かし、学生がプログラムの立案・実践・効果検証を体験する。担当教員が地域現場で実施するレクリエーションの見学と一部体験をする。その中で、レクリエーションインストラクターがどのように企画・運営・修正・実行しているのかについても学習することで、インストラクターの役割を体験する。								
評価基準	期末試験 (50%)、授業態度や発言 (40%)、出席状況とレポート (10%)								
教科書	公益財団法人日本レクリエーション協会編：楽しさをとおした心のげんきづくり～レクリエーション協会～ 2020								
参考書	レクリエーション支援の方法楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材								
実務経験に関する記述	RI 資格を保有する教員が授業を展開する。実務経験は高齢者の介護予防教室、障がい者の通う施設での健康教室を開催してきた教員が授業を展開する。領域は身体・精神・発達・高齢者・地域等である。								



授業科目名	音楽療法		(フリガナ) 担当教官名		武 田 千代美		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要	人間にとって音楽とはどのような存在であるのか改めて考えつつ、音楽を対人援助として用いる音楽療法の理論と技法論について学ぶ。音楽療法を生かすリハビリテーションのあり方について検討する。具体的には、音楽療法の領域とその対象について学び、障害を持った対象者に対する音楽療法の可能性や限界・問題について理解する。また、音楽療法の実践について臨床事例から学ぶ。なぜ音楽を用いるのか、音楽を用いることの特徴について考え、まとめる。そのために、音楽の機能、治療的作用、臨床における音の使い方などの技法論と、その背景にある理論について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療法の概念について説明できる。</li> <li>・音楽療法のプロセスについて説明できる。</li> <li>・音楽療法の技法について説明できる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	ガイダンス、「音楽」について考える						武田千代美
2	音楽療法の歴史、音楽療法の現状						武田千代美
3	音楽療法の定義、音楽の機能						武田千代美
4	音楽療法実践のために (1) 楽器、道具について						武田千代美
5	音楽療法実践のために (2) 指揮、伴奏、即興演奏						武田千代美
6	音楽療法実践のために (3) 合奏、合唱						武田千代美
7	音楽療法の進め方 (1) アセスメント 目標設定						武田千代美
8	音楽療法の進め方 (2) プログラム設定 記録						武田千代美
9	音楽療法の進め方 (3) 評価						武田千代美
10	子どもを対象とした音楽療法						武田千代美
11	音楽を取り入れた作業療法 アクティブラーニング (子どもを対象として)						武田千代美
12	成人を対象とした音楽療法						武田千代美
13	音楽を取り入れた作業療法 アクティブラーニング (成人を対象として)						武田千代美
14	高齢者を対象とした音楽療法						武田千代美
15	音楽を取り入れた作業療法 アクティブラーニング (高齢者を対象として)						武田千代美
アクティブラーニング	音楽療法の現場で実際に使用する楽器、道具を使って色々な対象者を想定した音楽活動を考える。ロールプレイで得られた情報をまとめる。						
評価基準	試験 50% レポート 30% 出席日数、授業態度 20%						
教科書	村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社 第1刷						
参考書	特になし						
実務経験に関する記述	高齢者福祉施設、精神科クリニック、保育園、障害児の自主グループ、自治体の介護予防事業などでの音楽療法臨床経験、および教育機関での音楽療法教育経験を持つ教員が、作業療法の現場で役立つ音楽の取り入れ方について、具体例を提示し実践的教育を行う。						

授業科目名	チャイルド・サポート		(フリガナ)		ヒキノリ絵・錦織健次			
開講学期	前期		担当教官名					
対象学科 及び学年	作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択	
科目概要	<p>1) 全ての子どもたちが、生き生き、のびのび、その子らしく幸せに生きていく社会の実現に向けて、その子の暮らしの場の一つである放課後児童クラブにて、障がいの有無という枠組みを超えた視点を持ちながら、実際の関わりを通して子どもたちの日々の姿と成長の過程を体験する。</p> <p>2) また、放課後児童クラブの役割、職員の方々の思いや業務内容を知ること、他職種の文化を理解し、他職種連携していくための基本的な考え方、姿勢を学ぶ。</p> <p>3) そして、子どもたちが生き生きのびのび、その子らしく幸せに生きるために、作業療法士ができることを考える。(狭義では当該放課後児童クラブに於いて、広義では地域社会に於いて)</p>							
到達目標	<p>1. 安全面に配慮しながら、子どもたちと楽しく遊び、信頼関係を築くことができる。</p> <p>2. 放課後児童クラブの職員の方々と信頼関係を築きながら、子どもたちへの思いや考え方をインタビューすることができる。</p> <p>3. 放課後児童クラブで過ごす子どもたちの姿を「人、環境、作業」の視点で整理することができる。</p> <p>4. 子どもたちの暮らしの場で、作業療法士ができること具体的なアイデアを挙げることができる。</p>							
回数	授 業 内 容						担 当	
1~2	オリエンテーション / 座学：放課後児童クラブ (学童保育) とは & 「人・環境・作業モデル」 / 放課後児童クラブでの実践①						引野 里絵 錦織 健次	
3	放課後児童クラブでの実践② / 子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎① 前庭感覚						引野 里絵 錦織 健次	
4								
5	放課後児童クラブの先生にインタビュー (am)						引野 里絵 錦織 健次	
6	子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎② 固有感覚						引野 里絵 錦織 健次	
7								
8	放課後児童クラブでの実践④ / 子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎③ 触覚						引野 里絵 錦織 健次	
9								
10	放課後児童クラブの先生にインタビュー：COPMによるインタビューより、課題の明確化 (am)						引野 里絵 錦織 健次	
11	放課後児童クラブでの実践⑤ - 課題解決の実践1 / 実践1の振り返り						引野 里絵 錦織 健次	
12								
13~14	放課後児童クラブでの実践⑥ - 課題解決の実践2 / 実践全体の振り返り&まとめ						引野 里絵 錦織 健次	
15	<p>1) 放課後児童クラブの役割、先生方の役割、思いなど</p> <p>2) 放課後児童クラブで過ごす子どもたちの姿を「人・環境・作業モデル」で整理する</p> <p>3) その子・その子達・先生方が、より生き生きのびのび幸せに過ごすための課題を見出す</p> <p>4) 課題解決に向けて行なった実践の振り返りと、今後の改善策を考える</p>						引野 里絵 錦織 健次	
アクティブ ラーニング	<p>1. 課題1) ~ 4) を提示</p> <p>2. 各演習における個人目標を設定する</p> <p>3. 演習では、放課後児童クラブで子どもたちと一緒に楽しく過ごし、職員の方にインタビューする体験をする</p> <p>4. 各演習後に振り返りを行い、自身の目標設定の達成の確認、次回の目標設定、および 課題に関連する情報を整理する</p> <p>5. 必要な情報は、主体的に調べたり、聴取するなどして、情報収集する</p> <p>6. 体験・学習したこと、考えたことをまとめて (レポート)、わかりやすく発表する</p>							
評価基準	<p>放課後児童クラブでの演習における態度 50%、課題提出・発表 50%</p> <p>※演習における態度：子どもたちと信頼関係を築こうとしているか、その日の振り返りにおける質疑応答の内容にて評価する</p> <p>※課題レポートの提出期日が厳守できているか、発表の際の質疑応答、出席状況にて評価する。</p> <p>※評価基準の総得点が 60 点に到達しない場合は 1 回のみ再試験を行う。再試験は授業内容に関するレポート課題 (100%) を別途提示し、判定を行う。</p>							
教科書	適宜、資料を配布する。							
参考書	1. 吉川ひろみ著：作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド、医学書院							
実務経験に 関する記述	医療・福祉・地域において、子どもの発達、特別支援教育等における他職種連携、障がいの有無という枠組みを超えた視点で子育て、子育て支援に携わっている作業療法士が、放課後児童クラブという子どもたちの暮らしの場で、子どもたちをより包括的に理解するための視点と実践を、演習および座学を通して伝える。							

授業科目名	コミュニティ・ベース・リハビリテーション (CBR)		(フリガナ) 担当教官名	オ 尾 シ 宍 宍	ノ 野 ド 戸	ヒロ 寛 ヤ ス 容	ア キ 明 ヨ 代	ウ チ 内 山	タ 田 本	サ キ 咲 マ マ 真 子 子 子	コ 子 子
開講学期	前期			演習	必修・選択 の別	自由選択					
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択				
科目概要	<p>近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つである Community-Based Rehabilitation : CBR が用いられている。本科目ではフィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CBR の概念を理解する。</li> <li>・ 地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。</li> <li>・ 地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。</li> <li>・ プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。</li> </ul>										
回数	授 業 内 容									担 当	
1	CBR の概念について説明、実践例などを調べる									尾野・内田 宍戸・山本	
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる									尾野・山本	
3	地域を知る；三沢地区の立地、人口などを調べる									尾野・山本	
4	地域を知る；地域の人に聞く									尾野・山本	
5	現状調査；フィールドワーク									尾野・内田 宍戸・山本	
6	現状調査；フィールドワーク									尾野・内田 宍戸・山本	
7	現状調査；フィールドワーク									尾野・内田 山本	
8	現状調査；フィールドワーク									尾野・内田 山本	
9	PT・OT 視点での改善点作成									尾野・山本	
10	PT・OT 視点での改善点作成									尾野・山本	
11	発表資料準備									尾野・内田 山本	
12	発表資料準備									尾野・内田 山本	
13	発表資料準備									尾野・内田 山本	
14	地域での発表、意見交換会									尾野・内田 宍戸・山本	
15	地域での発表、意見交換会									尾野・内田 宍戸・山本	
アクティブ ラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。										
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価 100%										
教科書	適宜紹介										
参考書	適宜紹介										
実務経験に 関する記述											

授業科目名	医療関連ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス (演習)		(フリガナ) 担当教官名	オノ 尾野	ヒロアキ 寛明	キツカワ 吉川	ヒデオ 英夫	イシガメ 石亀	ゴロウ 五郎
開講学期	前期			オノ 尾野	ヒロアキ 寛明	キツカワ 吉川	ヒデオ 英夫	イシガメ 石亀	ゴロウ 五郎
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択		
科目概要	<p>ビジネスを通じて地域課題解決を図る動きとして「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス (SB・CB)」が注目を浴びている。集落の小さなビジネスが地域の健康づくりにつながることも多い。本科目では、奥出雲町で実際にSB・CBを手掛ける、若手関係者と対話を重ねるプログラムを実施する。彼らに密着する中で、自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える。大多数の学生は、まずは専門職として医療機関や支援機関で働くことになる。一方で将来的に、地域の困りごとを解決しながら人々の健康づくりにつなげていく「コーディネーター」のような働き方や、地域で独立・起業するような働き方を思い描いている学生も増えている。そのためにも、専門職の技術と地域課題を掛け合わせる感性を持ち合わせてほしいと願っている。本プログラムを通じて、新たな領域を開拓する意識の養成を目指す。</p> <p>※本科目は、選択科目となっています。</p> <p>※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SB、CBの基本的概念を理解し、ビジネスを通じて地域課題解決に取り組む意義を理解する</li> <li>・複雑かつ多岐にわたる地域課題を俯瞰して今取り組むべき課題を抽出できる「課題設定能力」を身につける</li> <li>・地域まるごとリハビリテーションを迫るために、地域の様々な関係者と連携できる「対話力」「点と線をつなぐ力」を身につける</li> <li>・無理に企画を作るのではなく、地域の実践者たちの取り組みに専門技術を掛け合わせて試行錯誤できる感性を身につける</li> </ul>								
回数	授 業 内 容							担 当	
1	医療・福祉職がなぜ、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを学ぶのか。							尾野・吉川・石亀・安田 糸賀・落合・山本	
2	SB、CBの基本的概念：普通のビジネスと何が違うのかを理解する。							尾野・安田 山本	
3	SB、CBが生み出すもの：生きがい創出、健康増進など、ビジネスを通じた課題解決の可能性を学ぶ。							尾野・石亀 山本	
4	「小さな拠点」づくりとコミュニティビジネス：中山間地域の生活機能維持に向けたCBの役割を理解する。							尾野・安田 落合・山本	
5	医療福祉とSB・CB：地域医療・地域福祉領域の課題とSB・CBの最先端の事例を学ぶ。							尾野・石亀 糸賀・山本	
6~8	現地訪問 (1): 町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする							尾野・吉川・石亀・安田 糸賀・落合・山本	
9~11	現地訪問 (2): 地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える							尾野・糸賀 落合・山本	
12~13	現地訪問 (3): 地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる							尾野・石亀・安田 落合・山本	
14~15	地域の関係者向けの報告会							尾野・吉川・石亀 安田・糸賀・山本	
アクティブ ラーニング	地域のフィールドワークや実践者たちとの対話から自分なりの視点で課題を見つけ出し、自分たちができそうな小さな企画を考えて発表する。								
評価基準	地域の関係者向けの報告会プレゼンで評価								
教科書	適宜資料を配布する。								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾野寛明・中村香菜子・大美光代『わたしをつくるまちづくり～地域をマジメに遊ぶ実践者たち』(コールサック社、2021年)</li> <li>・竹端寛・尾野寛明(編著)『無理しない地域づくりの学校 私からはじまるコミュニティワーク』(ミネルヴァ書房、2017年)</li> </ul>								
実務経験に 関する記述									

授業科目名	医学英語		(フリガナ) 担当教官名		岩 田 淳		
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要	医療従事者にとって、英語は医療情報の収集や共有において不可欠なツールです。訪日や在日外国人患者の増加に伴い、日本語が通じない患者さんと円滑なコミュニケーションをとるためにも、英語のスキルがますます求められています。この科目では、医療やリハビリテーションに関する基本的な英語専門用語の習得、様々なリハビリテーションの場面を想定した医療会話のリスニング演習、そしてロールプレイを通じて、理学療法士や作業療法士として必要な基礎的で実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。英語の得意・不得意に関わらず、「医学英語の基礎を学びたい」と考える方や、「リハビリの現場で実際に使える英会話力を身につけたい」という方におすすめの授業です。ぜひ、幅広い医療状況に対応できる英語スキルを身につけ、自身の専門領域でより一層活躍できるようになりましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療やリハビリテーションに関する基本的な英語の専門用語が理解できる。</li> <li>・医療やリハビリテーションのさまざまな場面の英会話を聞いて内容が理解できる。</li> <li>・医療やリハビリテーションに関するさまざまな説明を英語を使って表現できる。</li> </ul>						
回数	授 業 内 容						担 当
1	授業ガイダンス（前半の授業の進め方、評価）						岩田
2	Lesson 1: 挨拶: 初回の挨拶をしよう						岩田
3	Lesson 2: 問診(1): 痛む部位を聞いてみよう						岩田
4	Lesson 3: 問診(2): 痛みの種類や程度を聞いてみよう						岩田
5	Lesson 1-3のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (1)						岩田
6	Lesson 4: 問診(3): 痛みの経過を聞いてみよう						岩田
7	Lesson 5: 肢位設定(1): 基本的な肢位を指示してみよう						岩田
8	Lesson 6: 肢位設定(2): 応用的な肢位を指示してみよう						岩田
9	Lesson 4-6のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(2)						岩田
10	Lesson 7: 評価(1): バイタルサインを確認しよう						岩田
11	Lesson 8: 評価(2): 自動可動域を測定してみよう						岩田
12	Lesson 9: 評価(3): 他動可動域を測定してみよう						岩田
13	Lesson 7-9のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(3)						岩田
14	Lesson 10: 評価(4): 体幹の可動域を測定してみよう						岩田
15	Lesson 11: 評価(5): 頸部の可動域を測定してみよう						岩田
16	Lesson 12: 評価(6): 筋力を測定してみよう						岩田
17	Lesson 10-12のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (4)						岩田
18	Lesson 13: 評価 (7): 触覚検査をしてみよう						岩田
19	Lesson 14: 評価 (8): バランス検査をしてみよう						岩田
20	Lesson 15: 評価 (9): 歩行評価をしてみよう						岩田
21	Lesson 13-15のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (5)						岩田
22	Lesson 16: 治療 (1): ホームエクササイズを指導してみよう						岩田
23	Lesson 17: 治療 (2): RICE 処置をしてみよう						岩田
24	Lesson 18: ADL(1): 移乗動作の練習をしてみよう						岩田
25	Lesson 19: ADL(2): 食事の評価と指導をしてみよう						岩田
26	Lesson 16-19のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (6)						岩田
27	Lesson 20: 環境調整 (1): 適切な歩行補助具を選択してみよう						岩田
28	Lesson 21: 環境調整 (2): 自宅のトイレを改修してみよう						岩田
29	Lesson 22: 退院: 退院後の生活指導をしてみよう						岩田
30	Lesson 20 - 22のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (7)						岩田
アクティブ ラーニング	ペアワークによる英会話のロールプレイを行います。						
評価基準	確認テスト 70%、授業への取り組み 30%						
教科書	『PT・OP が書いたリハビリテーション英会話』 三木貴弘他著・Medical View 社 2,640 円 (税込)						
参考書	プリント教材 (配布)						
実務経験に 関する記述	島根大学医学部にて 14 年間にわたり専門的な医学英語教育の実績を有する教員が、専門英語教育の教材や教授法を用いて、理学療法士・作業療法士として必要となる医学英語コミュニケーション能力の養成を目指した専門教育を行う。						